

I

問一 ア 演繹 イ 帰納

問二 獲得された仮説や知識が常に修正されるといふ作業の蓄積によって科学は発展するから。(四〇〇字)

問三 既知の前提もたらす必然的帰結に限定されず、非論理的な思考も含め人間の創造性を積極的に受け入れて知を拡張するアブダクションは、旧来の通念や常識、観察可能な事象のみに囚われず、未知の事柄や観念、既知の事柄における新たな関係性を「なぜ」と問いかける探究者の主体的営為によって発見することで、科学的探究の発展に寄与しうるから。(一六〇字)

問四 理論〔法則〕

問五 言葉や数式を用いて実験や観察により仮説の検証を可能にする演繹や、仮説を観察可能な経験的事実に照らして判断する帰納は、論理的必然性に根差した思考法だが、アブダクションは、事象全体を有機的に捉えようとする探究者の意識的な観察や熟慮により、事象について新たな発見をもたらして知を更新する非論理性をも孕んだ創造的な思考法だから。(一六〇字)

II

問一 (a) 荒涼 (b) 侵(浸) 食(蝕) (c) 痕跡 (d) 代謝 (e) 覇権

問二 自然は人為が介入しない純粹な実体である。(二〇〇字)

問三 人間が存在しない自然の場所を撮影した写真が、手付かずの自然であるかのように人間の作為によって意味づけられたものであるのと同様に、場所としての自然は、人間と二項対立的に存在するものではなく、自然環境の保護や回復、あるいは管理や利用、破壊といった人間の行為を通して秩序づけられ、記号化されたものとして人間の文化的な営みと相即的に存在するものであるということ。(一七七字)

問四 「第二の自然」と「第三の自然」は、前者が、自然は人間と別の領域に存在するという前提のもとで原生的な自然を対象化し、人間の労働を介して資源や商品として転化された自然であるのに対して、後者

が、人間以外の動植物の遺伝子コードそのものを操作し、種の生命それ自体に内側から介入することで作り出された人工的な自然であるという点で相違するが、両者は、人間の文化的な営みの外にあるものではなく、資本主義的なシステムのなかで収益を追求するために人間が改変し構成した自然であるという点で共通する。(三三八字)

問一

(a) 今荻生茂卿の著した『南留別志』に書かれた内容を論じるよ

うなもの、あまりに確かな根拠が乏しく取るに足りなくて。

(b) 申しあげたいことがとても多いけれど。

(c) 御薬湯なども召しあがることなく。

問二 江戸のまみ穴という地名は古金を掘った穴を指すまぶに由来するが、

江戸の砂は黒く細かな性質で金を産出する条件にあわず、享保年間に

江戸でまみ穴から金砂が出たというのは根拠のない偽りだから。

問三 朝廷に仕える役人たちは、まず朝に公事を務めるので、朝臣や朝廷に

「朝」の意味を表す漢字をあてているのであって、「朝臣(あそん)」

は「朝夕」と言うときの「あさ」の訓を借りたわけではないという説。

問四 (ア) 当時医薬を盛んに用いた記録もあり、『源氏物語』にも薬湯

を服用する場面が多くあるという点。

(イ) 鬼を尊んで治療に祈禱を用いるのはただの風俗でなく、わが

国でも中国でも伝統的な医療だという点。